

Title	小兒急性肺炎ニ於ケル罹患肺葉ノ擴張能ニ關スル「レ」線學的研究
Author(s)	久保, 政次
Citation	日本医学放射線学会雑誌. 1943, 4(3), p. 201-215
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/19779
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

原 著

小兒急性肺炎ニ於ケル罹患肺葉ノ擴張能ニ 關スル「レ」線學的研究

千葉醫科大學小兒科教室(主任 訖摩教授)

醫學士 久 保 政 次

Röntgenologische Untersuchungen über die Ausdehnungs-
vermögen des an der akuten Pneumonie erkrankten
Lungenlappens im Kindesalter.

Von

Seidi Kubo.

(Aus der Universitätskinderklinik zu Tiba. Vorstand: Prof.
Dr. Takehito Takuma.)

目 次

第一章 緒 言	第四章 検査成績
第二章 文獻的觀察	第五章 總括及ビ考按
第三章 検査材料並ビ検査方法	第六章 結 辭
第一節 検査材料	文 獻
第二節 検査方法	

第一章 緒 言

充實性肺虚脱. 一側性慢性肺炎. 及ビ肺結核ノ或時期ニ於テハ「レ」線學的ニ縱隔竇ノ患側移動. 患側肋間腔ノ狹隘. 患側横隔膜ノ舉上ハ必發ノ所見デアアル。

急性肺炎ニ於テモ Thoene (1922) ガ心臟ノ患側ニ移動セル乳兒ノ大葉性肺炎ノ11例ヲ報告シテヨリ Wallgren (1923), Tallermann (1929), Griffith (1920), Hart (1931), Corryllos u. Birnbaum (1928), Duken (1928), Ching (1934) 氏等ノ業績相踵イデ現ハレ. 急性一側性肺炎就中大葉性肺炎ニ於テハ縱隔竇ノ患側移動患側横隔膜舉上ハ屢々遭遇スル所見デアルト見做サレル

ニ至ツタ。然シテ之ガ原因ニ關シテハ、Thoeneハ罹患肺葉ニ於ケル肺虛脱ト健側ノ代償性膨脹ヲ以テ Tallermannモ亦患側ノ部分的肺虛脱ト健側ノ代償性膨脹ヲ以テ説明シ、Engel u. Samsonモソノ著 Handbuch der Röntgendiagnostik u. Therapie im Kindesalterニ於テ同様ノ理由ヲ述べ、乳兒及幼若幼兒ノ大葉性肺炎ハ肺虛脱ヲ屢々合併スル事多ク、タメニ上記ノ所見ハ乳兒及幼若兒ニ多イトイヒ、Griffithハ又單ニ健側ノ代償性膨脹ヲ以テ、Wallgren Dukenハ罹患肺葉ノ容積減少ト健側ノ代償性膨脹ヲ以テ、Chingハ罹患肺葉ノ擴張能ノ減弱ト健側ノ代償性膨脹ヲ以テ説明シテキル。

余モ亦最近當教室外來或ハ入院デ遭遇シタ急性ノ大葉性肺炎及ビ僞大葉性肺炎82例ニ就キ、患側橫隔膜舉上、中央陰影患側移動、患側肋間腔狹隘竝ビニ此等ト吸氣相トノ關係及ビ患側橫隔膜ノ高サヲ檢索シ、罹患肺葉ノ擴張能ニ關シ聊カ檢討ヲ加ヘタノデ茲ニ報告スル次第デアル。

第二章 文獻的考察

充實性肺虛脱ニ肺炎ノ合併セル例ハ比較的稀デ、Gleich, Morris(1931)ノ全内臟轉移症ノ7歳ノ黑人ノ右下葉ノ肺炎、Blanton(1934)ノ生後5週ノ乳兒ノ右上葉ノ肺炎、Abt(1925)ノ10歳ノ小兒ノ手術後肺炎、Fanconi(1934)ノ右下葉ノ肺炎(2例)ノ報告ガアルノミデアル。而シテFanconiノ例ハ氣管枝炎ノ後ニ急ニ高熱トナリ、同時ニ左下葉ニ均一陰影ガ證明サレ、縱隔竇橫隔膜ハ患側ニ變位シ、患側ノ肋間腔狹隘ガ認めラレタガ、Crepitatio reduxノ本ニ以上ノ症候ハ消失シタノデ、氣管枝分泌物及ビ氣管枝痙攣ニヨリ氣管枝閉塞ヲ引起シ、續イテ肺炎ヲ移行シタタメデアラウトイツテキル。

然ルニThoene(1922)ハ一側性肺浸潤時ノ縱隔竇移動ハ稀ナラズトナシ、11例ノ乳兒ノ急性大葉性肺炎ニ於テ心臟ノ罹患側ニ移動セルヲ認め、之ヲ肺虛脱ト健側ノ代償性膨脹ニヨルトナシ、Tallermann(1929)モ氣管枝肺炎及ビ「クルップ」性肺炎ノ5例ニ於テ心臟ノ患側ニ移動シ、治癒ト共ニ原ノ位置ニ返ルヲ認め、之ヲ部分的肺虛脱ト健側ノ代償性氣腫ニヨルトシタ。又Engel u. SamsonハEngel u. Schall著 Handbuch der Röntgendiagnostik und Therapie im Kindesalterニ於テ、乳兒及ビ幼兒ノ肺炎デハ肺虛脱ガ或程度關與シテキルノデ、乳兒及ビ幼兒ノ大葉性肺炎デハ縱隔竇移動ハ屢々認めラレ、時ニ非常ニ高度デDextrocardieノ様ニナル事ガアルガ、年長兒ニ於テハ縱隔竇患側移動ハ認めラレナイ。而シ極ク稀ニ肺炎性浸潤ガ高度デ罹患肺葉ガ擴張シ、輕度デアアルガ逆ニ縱隔竇ノ健側ニ移動スル場合モアルト云ツテキル。

Griffith(1920)ハ40例ノ小兒大葉性肺炎中16例ニ於テ心臟ノ患側ニ移動セルヲ認め、健側ノ代償性膨脹ヲ以テ説明シ、Wallgren(1923)ハ生後2歳迄ノ肺炎デハ心臟ノ患側變位ハ肺炎ノ初期ニ於テ認めラレルガ、コレハ罹患肺葉ノ容積ノ減少ト健側ノ代償性氣腫ニヨルトナシ、

Duken (1928) モ小兒ノ大葉性肺炎ニ於テ中央陰影ノ患側移動竝ニ患側ノ胸廓狹隘ハ浸潤肺葉ハ非罹患時ノ空氣ノ充滿シタ時ヨリモ容積ガ小デアルトメニ、他ノ肺葉ノ代償性膨脹ヲ惹起スルタメデアルト云ツテキル。

Hart (1931) ハ肺炎デハ心臟氣管、横隔膜ノ患側移動ハ普通ノ變化デアルトナシ、Coryllos u. Birnbaum (1928) ハ實驗的犬ノ肺炎デ縱隔竇心臟ノ患兒ニ移動セルヲ認メ、人間ノ肺炎ニ於テモ屢々上記ノ所見アルヲ確メタ。Ching (1933) モ犬ノ實驗的肺炎ノ中42例ニ於テ或程度ノ縱隔竇、横隔膜ノ患側移動ヲ見、40例ノ大葉性肺炎(成人37例、小兒3例)ノ中22例ニ於テ横隔膜ノ舉上ガアリ、5例ニ於テ心臟縱隔竇ノ患側移動ヲ認メタ。

然シテ 1) 深吸氣時ニ於テノミ横隔膜ノ舉上及ビ縱隔竇ノ患側移動ガアルガ、呼氣時ニハ變化ハ認メラレナイ。

2) 患側移動ハ極ク早期ニ未ダ陰影ガ證明出來ナイ中ニ既ニ認メラレル、ソシテ病氣ノ存續スル間存在シ、時ニ完全ニ治癒セル後モ暫時殘ツテキル事ガアル。

3) 一側ノ肺葉全部ガ罹患セル場合ハコノ移動ハ特ニ著明デ然モ必發デアアル。下葉ノ肺炎ハ餘リ著シクナク又餘リ屢々現ハレナイ。右上葉ノミガ罹患セル時ハ一層ソノ程度ハ弱ク、或ハ全く缺如スル。

4) 小兒デハ心臟縱隔竇ガ易動性ナルタメ、ヨク患側ニ移動スルガ成人デハ主トシテ横隔膜ノ舉上ニヨリ代償サレル。

5) 縱隔竇ノ患側移動、患側ノ横隔膜舉上ハ充實性肺虛脱ニ於ケル程規則的デモナク又高度デモナイ。

然シテ上記ノ所見ノ發生機轉ニ關シテ罹患肺葉ノ肺胞壁葉間壁肋骨肋膜ガ肥厚シテキルタメニ擴張能ガ低下シテ居リ、他方健全肺葉ハ生體ノ酸素要求ヲ充スタメニ、正常ヨリ強ク擴張スルタメデアルト云ヒ、事實肺炎デ死亡シタ犬ノ肺臟ニ空氣ヲ充滿スルニ健全肺葉ハ罹患肺葉ヨリ遙カニ高度ニ擴張スルト云ツテキル。

第三章 検査材料竝ニ検査方法

第一節 検査材料

検査材料ハ最近數年間當教室入院及ビ外來デ臨牀的「レ」線學的ニ「クルップ」性肺炎、偽大葉性肺炎ト診斷サレタ「フィルム」ヲ用ヒ、慢性肺炎ハ除外シタ。

寫眞ノ不鮮明ナモノ、胸骨鎖骨關節ガ中心線ヨリ等距離デナク、從ツテ上體ノ捻レヲ思ハセルモノ及ビ漏斗胸ノ高度ノモノハ之ヲ除外シタ。

撮影法ハ焦點「フィルム」間ノ距離2米デ管球焦點ハ第四胸椎ノ高サニアル様ニシ、背腹方向ニ瞬間的($\frac{1}{10}$ — $\frac{1}{20}$ 秒)ニ撮影シタモノデアアル。

第 1 表

病型	大葉性	偽大葉性	合 計
罹患肺葉			
右 上 葉	12	27	39
中 葉	5	7	12
下 葉	2	11	13
左 上 葉	10	4	14
下 葉	5	3	8
右側二葉	2	3	5
一側全葉	2	0	2
合 計	37	45	82

症例ハ第 1 表ノ如クデ大葉性肺炎 37 例。偽大葉性肺炎 45 例デ。大葉性肺炎デハ右上葉 12 例。左上葉 10 例。左下葉 5 例。右中葉 5 例。右下葉 2 例。右上中葉 2 例。右全葉。左全葉各 1 例。偽大葉性肺炎デハ右上葉 27 例右中葉 7 例。左上葉 4 例。左下葉 3 例。右上中葉 3 例デアツタ。

第二節 検査方法

呼吸相ノ決定ハ Allen and Walz 氏ノ方法ニ依ツタ。即チ鎖骨ノ胸骨端ヨリ右横隔膜ノ中點ニ至

ル距離ヲ d_1 トシ。右横隔膜穹窿ノ頂點ヲ過ギル胸骨内徑ヲ d_2 トスレバ。

$$\frac{d_1}{d_2} > 50\% \cdots \text{吸氣相 0 (完全ナ呼氣時)}$$

$$\frac{d_1}{d_2} = 51\% \sim 55\% \cdots \text{吸氣相第 1 度}$$

$$\frac{d_1}{d_2} = 56\% \sim 60\% \cdots \text{吸氣相第 2 度}$$

$$\frac{d_1}{d_2} = 61\% \sim 65\% \cdots \text{吸氣相第 3 度}$$

$$\frac{d_1}{d_2} > 66\% \cdots \text{吸氣相第 4 度 (完全ナ吸氣時)}$$

トシタ。

極メテ少數例デアツタガ右横隔膜ノ舉上ノアル場合ハ左横隔膜中點ヨリ $\frac{1}{2}$ 推體上ノ點ト鎖骨ノ胸骨端迄ヲ d_1 トシ。胸廓内徑 d_2 モ左横隔膜穹窿頂ヨリ $\frac{1}{2}$ 推體上デ測定シタ。横隔膜舉上ハ相對的ニ兩側ノ高サヲ比較シ。左側ニ於テハ右側ノ横隔膜ト同高ノ場合ヲ (+) 左側ノ右側ヨリ高イ場合ヲ (++) トシタ。右側ニ於テハ左側ヨリ 1 推體ノ高サダケ高位ノ場合ヲ (+) ソレ以上ヲ (++) トシタ。

中央陰影ノ患側移動ハ心臟ノ位置ニヨリ。右第 2 弓ガ僅カニ脊椎陰影ヨリ突出セル場合ヲ左側移動 (+)。全然影ヲ没スル場合ヲ (++) トシタ。コノ場合漏斗胸ノ有無ニ特ニ注意シ。漏斗胸ノアル場合ハ除外シタ。右側移動ノ場合ハ心臟ノ殆ンド胸廓ノ中心ニアル場合ヲ (+)。ソレ以上ヲ (++) トシタ。肋間腔ノ狹隘ハ副胸骨線上ニ於テ左右ヲ比較シタ。

横隔膜ノ高サハ横隔膜穹窿ヲ後側ノ肋骨ノ高サデ測定シタ。

第四章 検査成績

82 例ノ小兒急性大葉性肺炎。偽大葉性肺炎ニ於ケル患側横隔膜舉上。中央陰影患側移動。患肋間腔狹隘及ビ呼吸相ハ第 2 表ノ如クデアル。

第 2 表

番號	氏 名	性	年 齡	病 型	罹患肺葉	呼吸相	「レ」線 所 見		
							患側橫膈膜	中央陰影移動	患側肋間隙
1	藤○澄○	♀	1年 6ヶ月	大葉性肺炎	左 上 葉	3	++	-	⊕
2	深○榮○郎	♂	4年 8ヶ月	„	右 上 葉	0	-	-	-
3	松○幸○	♀	2年	„	右 中 葉	3	-	-	-
4	伊○德○	♂	3ヶ月	偽大葉性肺炎	右 上 葉	1	-	-	-
5	櫻○幸○	♂	1年	大葉性肺炎	左 上 葉	2	++	⊕	⊕
6	米○繁○	♂	6年10ヶ月	„	左 全 葉	3	?	⊕	⊕
7	青○英○	♀	8ヶ月	偽大葉性肺炎	左 下 葉	2	⊕	+	++
8	黃○和○	♂	1年	大葉性肺炎	右 上 葉	0	-	-	-
9	雨○利○	♀	12年10ヶ月	„	右 中 葉	4	-	-	-
10	五○久○	♀	10ヶ月	偽大葉性肺炎	右上. 中葉	0	⊕	-	-
11	鈴○巳○夫	♂	5年 9ヶ月	大葉性肺炎	左 下 葉	2	+	-	⊕
12	小○一○	♂	3年 9ヶ月	„	右 上 葉	2	-	-	-
13	家○滿○雄	♂	7ヶ月	偽大葉性肺炎	„	4	-	-	-
14	茂○清○	♂	1年 3ヶ月	„	„	3	-	+	-
15	若○楨○	♂	1年 1ヶ月	大葉性肺炎	左 上 葉	1	-	⊕	-
16	板○良○	♂	1年 4ヶ月	偽大葉性肺炎	右 上 葉	3	-	-	-
17	紅○義○	♂	11年	大葉性肺炎	„	1	-	-	-
18	加○久○	♂	4年 2ヶ月	„	„	0	-	-	-
19	始○幸○	♂	2ヶ月	偽大葉性肺炎	„	3	-	-	+
20	藤○幸○	♂	11ヶ月	„	右 中 葉	0	-	-	-
21	清○小○	♂	1ヶ月	„	右 上 葉	3	-	-	-
22	土○考○	♂	2ヶ月	„	„	2	-	-	-
23	田○ 馨	♂	11ヶ月	„	„	3	⊕	-	+
24	渡○達○	♀	2年 6ヶ月	大葉性肺炎	右 中 葉	2	-	-	-
25	田○義○	♂	4年 8ヶ月	„	右 上 葉	4	-	-	-
26	石○み○子	♀	1年 5ヶ月	„	„	0	-	-	-
27	高○の○	♀	9ヶ月	偽大葉性肺炎	„	3	-	-	-
28	芦○重○	♂	7年 2ヶ月	大葉性肺炎	„	2	-	-	-
29	遠○朱○	♀	1年 7ヶ月	偽大葉性肺炎	„	0	-	-	-
30	安○俊○	♂	6年 3ヶ月	大葉性肺炎	左 上 葉	3	+	-	⊕
31	鈴○俊○	♀	1年 4ヶ月	偽大葉性肺炎	右 下 葉	1	-	-	-
32	原○子○	♀	1年 9ヶ月	„	右上. 中葉	2	⊕	+	-
33	須○合○	♀	4ヶ月	„	右 上 葉	0	-	-	-
34	岩○康○	♂	4年 1ヶ月	大葉性肺炎	„	0	-	-	-
35	岩○康○	♀	7年11ヶ月	„	右上. 中葉	0	-	⊕	⊕
36	若○敬○	♂	1年 6ヶ月	„	左 上 葉	1	-	⊕	⊕
37	鹿○武○	♂	1年	偽大葉性肺炎	右 上 葉	2	-	-	-
38	大○保○子	♀	1年10ヶ月	„	„	1	- ⊕	++ ⊕	-
39	平○富○子	♀	9ヶ月	„	„	2	-	-	-
40	山○美○子	♀	9ヶ月	„	„	2	-	+	+
41	中 臺 ○ ○	♂	1年 7ヶ月	„	右 中 葉	1	-	-	-

42	長○部○ス	♀	1ヶ月	”	右 上 葉	3	—	+	—
43	古○浩	♂	2年	大葉性肺炎	右上・中葉	1	—	⊕	⊕
44	淺○洋○	♀	1年 9ヶ月	偽大葉性肺炎	右 上 葉	1	—	—	—
45	高○峯○	♀	5年	大葉性肺炎	右 下 葉	1	++	—	—
46	山○守	♂	9ヶ月	偽大葉性肺炎	右上・中葉	1	—	—	+
47	藤○登○	♀	2年	”	右 上 葉	2	—	+	—
48	大○紀○	♂	7ヶ月	”	”	0	—	—	—
49	林○彦	♂	5年 4ヶ月	大葉性肺炎	右 中 葉	2	—	⊕	—
50	日○雄○	♂	7年 7ヶ月	”	左 上 葉	3	++	⊕	⊕
51	伊○孝	♂	10ヶ月	偽大葉性肺炎	左 下 葉	0	—	—	—
52	高○直○	♂	6ヶ月	”	右 上 葉	2	—	—	—
53	片○辰○	♂	12年 4ヶ月	大葉性肺炎	左 全 葉	4	?	⊕	⊕
54	淺○和○	♀	1年 4ヶ月	偽大葉性肺炎	左 上 葉	1	⊕	—	—
55	宍○三○	♂	7ヶ月	”	”	0	⊕	—	+
56	石○光○	♀	6ヶ月	”	右 中 葉	1	—	—	—
57	吉○山○	♀	2ヶ月	”	右 上 葉	4	—	++	—
58	澤○義○古	♂	10ヶ月	”	右 中 葉	1	—	—	—
59	加○文○	♀	12年	大葉性肺炎	右 上 葉	2	—	—	⊕
60	渡○節○	♀	6年 1ヶ月	”	左 上 葉	3	+	—	—
61	内○正○	♂	2年 7ヶ月	”	右 上 葉	0	—	—	—
62	大○保○雄	♂	4年 7ヶ月	”	左 下 葉	2	++	⊕	—
63	保○喜○江	♀	3年 4ヶ月	”	左 上 葉	0	—	⊕	—
64	田○保○美	♀	1年 4ヶ月	”	右 中 葉	2	—	—	—
65	太○と○子	♀	6年	”	左 下 葉	1	++	—	—
66	石○よ○	♀	1年10ヶ月	偽大葉性肺炎	左 上 葉	2	⊕	++	?
67	渡○秀○子	♀	5年 5ヶ月	大葉性肺炎	左 下 葉	1	+	—	—
68	林○義	♂	1年 4ヶ月	”	右 上 葉	1	—	—	—
69	石○忠○	♂	1年 8ヶ月	”	右 下 葉	2	—	⊕	—
70	吉○勇	♂	1年11ヶ月	”	左 上 葉	1	++	⊕	⊕
71	秋○忠○	♂	8ヶ月	偽大葉性肺炎	右 上 葉	1	—	—	—
72	野○ふ○	♀	2年10ヶ月	”	”	3	—	—	—
73	山○猛○	♂	1年	”	”	2	—	—	—
74	島○修	♂	8ヶ月	”	右 中 葉	0	—	—	—
75	鈴○惠○子	♀	9年	大葉性肺炎	左 上 葉	3	—	⊕	⊕
76	磯○秀○	♂	1年11ヶ月	偽大葉性肺炎	左 下 葉	2	⊕	—	+
77	山○岩○	♂	11ヶ月	”	左 上 葉	2	⊕	—	+
78	小○幸○	♀	2年	”	右 上 葉	0	—	—	—
79	市○忠○	♂	3ヶ月	”	右 中 葉	3	—	—	—
80	山○勤	♂	8ヶ月	”	右 上 葉	1	—	—	—
81	大野○	♂	1年 5ヶ月	”	左 上 葉	1	—	—	—
82	宍○勇	♂	8ヶ月	”	右 中 葉	2	—	—	—

患側横隔膜舉上ノ認メラレタ例ハ大葉性肺炎デハ第3表(1)ニ於ケル如ク 検査例 35 例中 10 例ニ於テ (28.5%)。罹患肺葉別デハ左下葉 4 例中 3 例 (75%)ニ於テ。左上葉 10 例中 6 例 (60%)ニ於テ右下葉 2 例中 1 例 (50%)ニ於テ認メラレタガ。右上葉 12 例。右中葉 5 例。右側二葉 2

例ニ於テハ1例モ認メラレナカツタ。

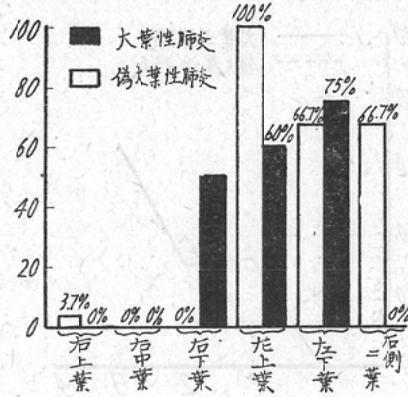
偽大葉性肺炎ニ於テハ第3表(2)ノ如ク検査例數45例中9例(20%)ニ於テ患側横隔膜舉上ガ認メラレ。罹患肺葉例ニハ左上葉4例中4例(100%)ニ於テ。左下葉。右側二葉ハ各3例中2例ニ於テ(66.7%)右上葉27例中1例(3.7%)ニ於テ認メラレタガ右中葉7例右下葉1例ニ於テハ患側横隔膜舉上ハ認メラレナカツタ。之ヲ要スルニ。患側横隔膜舉上ハ大葉性肺炎ノ方ガ偽大葉性肺炎ヨリ屢々認メラレ。ソノ發現率ハ大葉性肺炎デハ左下葉。左上葉。右下葉ノ順ニ偽大葉性肺炎デハ左上葉。左下葉。右側二葉ノ順デアツタ。即チ罹患部位ノ大ナル程患側横隔膜舉上發現率ハ高カツタ第1圖(1)。之ニ反シ。患側横隔膜低位ノ場合ハ左側ノ患側ノ場合ハ1例モナク。右側ノ患側ノ場合ハ58例中7例ニ於テ輕度乍ラ認メラレタガ。皆テ腹部鼓腸ニヨルモノト思ハレタ。

患側肋間腔狹隘ノ認メラレタ例ハ第4表(1)ノ如ク大葉性肺炎デハ37例12例(32.4%)デ。罹患肺葉別ニハ一側全葉ノ罹患セル場合ハ2例中2例ニ於テ(100%)。右側二葉ノ罹患セル場合モ2例中2例ニ於テ(100%)。右左上葉10例中7例ニ於テ(70%)。左下葉4例中1例ニ於テ(25%)。右上葉12例中1例ニ於テ(8.3%)認メラレタガ。右中葉(5例)右下葉(2例)ニ於テハ1例モ認メラレナカツタ。

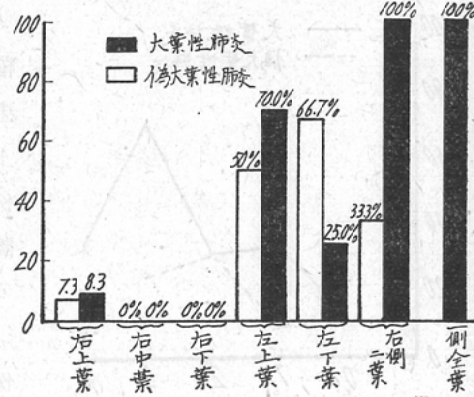
偽大葉性肺炎デハ第4表(2)ノ如ク45例中8例ニ於テ(17.8%)患側肋間腔狹隘ガ認メラレ。罹患肺葉別ニハ左下葉ハ3例中2例ニ於テ(66.7%)。左上葉4例中2例ニ於テ(50%)。右側二葉3例中1例ニ於テ(33.3%)。右

第 1 圖

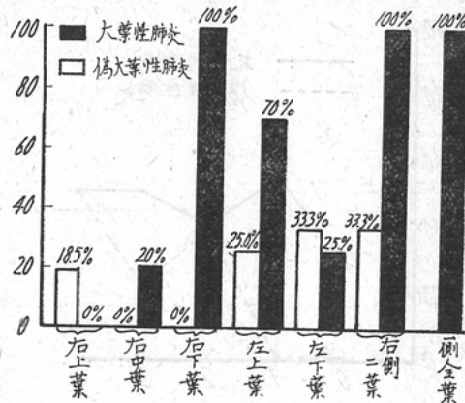
患側横隔膜舉上出現率(罹患肺葉別)(1)



患側肋間腔狹隘出現率(罹患肺葉別)(2)

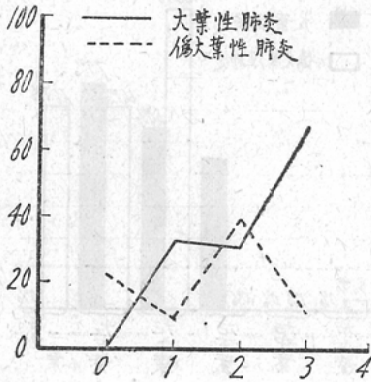


中央陰影患側移動出現率(罹患肺葉別)(3)

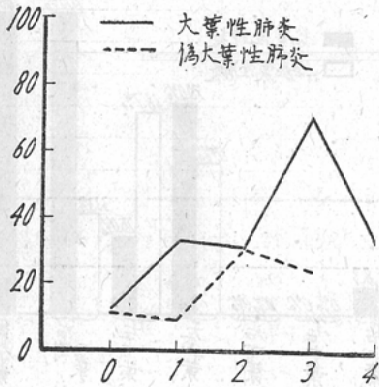


第 2 圖

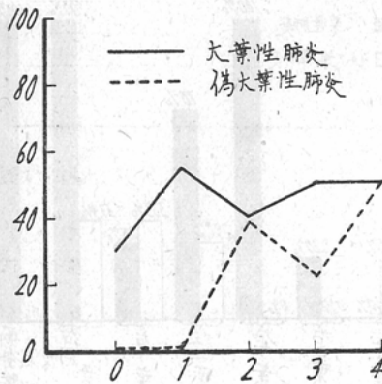
患側横隔膜舉上ト呼吸相トノ關係(1)



患側肋間腔狹隘ト呼吸相トノ關係(2)



中央陰影患側移動ト呼吸相トノ關係(3)



上葉 27 例中 2 例ニ於テ (7.4%)。患側肋間腔狹隘ガ認メラレタガ。右中葉 (7 例) 右下葉 (1 例)ニ於テハ 1 例モ上記ノ所見ハ認メラレナカツタ。

患側ノ肋間腔狹隘モ大葉性肺炎ノ方ガ偽大葉性肺炎ヨリ屢々發現シ。大葉性肺炎デハ一側全葉。右側二葉左上葉右下葉右上葉ノ順ニ偽大葉性肺炎デハ左下葉左上葉右側二葉右上葉ノ順デアツタ。然シテ罹患部位ノ大ナル程患側肋間腔狹隘ノ出現率ハ高度デアツタ。全然上記所見ノ認メラレナカツタノハ大葉性肺炎。偽大葉性肺炎共ニ右中葉右上葉デアツタ第 1 圖 (2)。患側ノ肋間腔ノ寧口擴張シタ例ハ 1 例モ認メラレナカツタ。

中央陰影患側移動ノ認メラレタ例ハ第 5 表 (1)ノ如ク大葉性肺炎デハ 37 例中 15 例 (40.5%) デ。罹患肺葉別ニハ右側二葉。一側全葉。右下葉ノ罹患シタ場合ハ共ニ 2 例中 2 例ニ於テ (100%)。左上葉 10 例中 7 例ニ於テ (70%)。左下葉 4 例中 1 例ニ於テ (25%)。右中葉 5 例中 1 例ニ於テ (20%) 認メラレタガ。右上葉 12 例中 1 例モ上記ノ所見ハ認メラレナカツタ。

偽大葉性肺炎デハ第 5 表 (2)ノ如ク 45 例中 8 例ニ於テ (17.8%) 認メラレ。罹患肺葉別ニハ右上葉ハ 27 例中 5 例ニ於テ。 (18.5%) 左上葉ハ 4 例中 1 例ニ於テ。 (25.0%) 左下葉。右側二葉ハ共ニ 3 例中 1 例 (33.3%)ニ於テ。中央陰影ノ患側移動ガ認メラレタガ。右中葉 7 例。右下葉 1 例ニ於テハ 1 例モ上記ノ所見ハ認メラレナカツタ。之ヲ要スルニ。中央陰影ノ患側移動モ亦大葉性肺炎ノ方ガ偽大葉性肺炎ヨリ屢々發現シタ。

發現ノ順序ハ大葉性肺炎デハ一側全葉。右側二葉。左上葉。左下葉。右中葉ノ順ニ。偽大葉性肺炎デハ右側二葉。左下葉。左上葉右上葉ノ順デ。大體ニ於テ罹患部位ノ大ナル程屢々發現シタ。只偽

第3表(1) 大葉性肺炎ノ患側横隔膜舉上(罹患肺葉別吸氣相別)括弧内ハ検査例數

呼吸相		0	1	2	3	4	合計	%
罹患肺葉	右 上 葉	0(6)	0(2)	0(3)		0(1)	0(12)	0
	中 葉			0(3)	0(1)	0(1)	0(5)	0
	下 葉		1(1)	0(1)			1(2)	50.0
	左 上 葉	0(1)	1(3)	1(1)	4(5)		6(10)	60.0
	下 葉		1(2)	2(2)			3(4)	75.0
	右側二葉 一側全葉	0(1)	0(1)				0(2)	0
合計	0(8)	3(9)	3(10)	4(6)	0(2)	10(35)	28.5	
%	0	33.3	30.0	66.7				

第3表(2) 偽大葉性肺炎ノ患側横隔膜舉上(罹患肺葉別、吸氣相別)括弧内ハ検査例數

呼吸相		0	1	2	3	4	合計	%
病型	右 上 葉	0(4)	0(6)	0(7)	1(8)	0(2)	1(27)	3.7
	中 葉	0(2)	0(3)	0(1)	0(1)		0(7)	0
	下 葉		0(1)				0(1)	0
	左 上 葉	1(1)	1(1)	2(2)			4(4)	100.0
	下 葉	0(1)		2(2)			2(3)	66.7
	右側二葉 一側全葉	1(1)	0(1)	1(1)			2(3)	66.7
合計	2(9)	1(12)	5(13)	1(9)	0(2)	9(45)	20.0	
%	22.2	8.3	38.5	11.1				

第4表(1) 大葉性肺炎ノ患側肋間腔狹隘(罹患肺葉別、吸氣相別)括弧内ハ検査例數

呼吸相		0	1	2	3	4	合計	%
罹患肺葉	右 上 葉	0(6)	0(2)	1(3)	0	0(1)	1(12)	8.3
	中 葉	0	0	0(3)	0(1)	0(1)	0(5)	0
	下 葉		0(1)				0(2)	0
	左 上 葉	0(1)	2(3)	1(1)	4(5)		7(10)	70.0
	下 葉		0(2)	1(2)			1(4)	25.0
	右側二葉 一側全葉	1(1)	1(1)		1(1)	1(1)	2(2)	100.0
合計	1(8)	3(9)	3(10)	5(7)	1(3)	12(37)	32.4	
%	12.5	33.3	30.0	71.4	33.3			

大葉性肺炎デハ右上葉ニ於テ割合高率ニ發現シタ第1圖(3)。之ニ反シ中央陰影ノ健側移動ハ1例モ認メラレナカツタ。

次ニ患側ノ横隔膜舉上ト呼吸相トノ關係ヲ見ルニ、大葉性肺炎デハ第3表(1)ノ如ク、吸氣相0即チ完全ナ呼氣時ニ於テハ3例中1例モ患側ノ横隔膜舉上ハ認メラレナカツタガ、吸氣相1ニ於テハ9例中3例ニ於テ(33.3%)、吸氣相2ニ於テハ10例中3例ニ於テ(30%)、吸氣相3

第4表(2) 偽大葉性肺炎ノ患側肋間腔狹隘(罹患肺葉別、吸氣相別)括弧内ハ検査例數

呼吸相			0	1	2	3	4	合計	%
罹患肺葉									
右	上	葉	0(4)	0(6)	1(7)	1(8)	0(2)	3(27)	7.4
	中	葉	0(2)	0(3)	1(1)	0(1)		0(7)	0
	下	葉		0(1)				0(1)	0
左	上	葉	1(1)	0(1)	1(2)	0		2(4)	50.0
	下	葉	0(1)		2(2)			2(3)	66.7
右側	二	葉	0(1)	1(1)	0(1)			1(3)	33.3
一側	全	葉							
合	計		1(9)	1(12)	4(13)	2(9)		8(45)	17.8
	%		11.1	8.3	30.7	22.2			

第5表(1) 大葉性肺炎ノ中央陰影患側移動(罹患肺葉別、吸氣相別)括弧内ハ検査例數

呼吸相			0	1	2	3	4	合計	%
罹患肺葉									
右	上	葉	0(6)	0(2)	0(3)		0(1)	0(12)	0
	中	葉			1(3)	0(1)	0(1)	1(5)	20.0
	下	葉		1(1)	1(1)			2(2)	100.0
左	上	葉	1(1)	3(3)	1(1)	2(5)		7(10)	70.0
	下	葉		0(2)	1(2)			1(4)	25.0
右側	二	葉	1(1)	1(1)				2(2)	100.0
一側	全	葉				1(1)	1(1)	2(2)	100.0
合	計		2(8)	5(9)	4(10)	3(6)	1(2)	15(37)	40.5
	%		25.0	55.6	40.0	50.0	50.0		

第5表(2) 偽大葉性肺炎ノ中央陰影患側移動(罹患肺葉別、吸氣相別)括弧内ハ検査例數

呼吸相			0	1	2	3	4	合計	%
罹患肺葉									
右	上	葉	0(4)	0(6)	2(7)	2(8)	1(2)	5(27)	18.5
	中	葉	0(2)	0(3)	0(1)	0(1)		0(7)	0
	下	葉		0(1)				0(1)	0
左	上	葉	0(1)	0(1)	1(2)			1(4)	25.0
	下	葉	0(1)		1(2)			1(3)	33.3
右側	二	葉	0(1)	0(1)	1(1)			1(3)	33.3
一側	全	葉							
合	計		0(9)	0(12)	5(13)	2(9)	1(2)	8(45)	17.8
	%		0	0	38.4	22.2	50.0		

ニ於テハ6例中4例ニ於テ(66.6%)。患側ノ横隔膜舉上ガ認メラレタ。

偽大葉性肺炎デハ第3表(2)ノ如ク吸氣相0ノ時ハ9例中2例ニ於テ(22.2%)。吸氣相1ニ於テハ12例中1例ニ於テ(8.3%)。吸氣相2ノ時ハ13例中5例ニ於テ(33.5%)。吸氣相3ノ時ハ9例中1例(11.1%)ニ於テ患側ノ横隔膜舉上ガ認メラレタ。

即チ大葉性肺炎及ビ偽大葉性肺炎ニ於テ患側ノ横隔膜舉上出現率ハ大體ニ於テ吸氣相ノ増加

ニ比例シタ。然シテ大葉性肺炎ノ方ガ偽大葉性肺炎ヨリモ吸氣相ノ増加ニヨル出現率ハ高カツタ第2圖(1)。

患側ノ肋間腔狹隘ハ大葉性肺炎デハ第4表(1)ノ如ク吸氣相0ノ時ハ8例中1例ニ於テ(12.5%)。吸氣相1ノ時ハ9例中3例ニ於テ(33.3%)。吸氣相2ノ時ハ10例中3例ニ於テ(30%)。吸氣相3ノ時ハ7例中5例ニ於テ(71.4%)。吸氣相4ノ時ハ3例中1例(33.3%)於テ證明サレ。偽大葉性肺炎デハ第4表(2)ノ如ク吸氣相0ノ時ハ9例中1例ニ於テ(11.1%)。吸氣相1ノトキハ12例中1例ニ於テ(8.3%)。吸氣相2ノ時ハ13例中4例ニ於テ(30.7%)。吸氣相3ノ時ハ9例中2例ニ於テ(22.2%)患側肋間腔狹隘ガ認めラレタ。即チ患側ノ肋間腔狹隘ノ出現率ハ大體ニ於テ吸氣相ノ程度ニ比例シテ増加シ。大葉性肺炎ノ方ガ偽大葉性肺炎ヨリモ吸氣相ノ増加ニヨル出現率ハ高カツタ第2圖(2)。

次ニ中央陰影ノ患側移動ト吸氣相トノ關係ヲ見ルニ大葉性肺炎デハ第5表(1)ノ如ク吸氣相0ノ時ハ8例中2例ニ於テ(25.0%)。吸氣相1ノ時ハ9例中5例ニ於テ(55.6%)。吸氣相2ノ時ハ10例中4例ニ於テ(40.0%)吸氣相3ノ時ハ6例中3例ニ於テ(50%)。吸氣相4ノ時ハ2例中1例ニ於テ(50%)。中央陰影ガ患側ニ移動セルヲ認メタ。偽大葉性肺炎デハ第5表(2)ノ如ク吸氣相0ノ時ハ9例中1例モ中央陰影患側移動ハ認めラレズ。吸氣相1ノ時モ12例中1例モ無ク。吸氣相2ノ時ハ13例中5例ニ於テ(38.4%)吸氣相3ノ時ハ9例中2例ニ於テ(22.2%)。吸氣相4ノ時ハ2例中1例ニ於テ(50%)中央陰影ノ患側ニ移動セルヲ認メタ。コノ場合モ吸氣相ニ比例シテ中央陰影患側移動ノ出現率ガ増加シタ。然シテ大葉性肺炎ノ方ガ吸氣相ノ増加ニヨル出現率ハ高カツタ第2圖(3)。

次ニ患側横隔膜ノ高サヲ後側ノ肋骨ヲ測定シタルニ、大葉性肺炎デハ第6表(1)偽大葉性肺炎デハ第6表(2)ノ如クデアル。

大葉性肺炎偽大葉性肺炎ニ於テ患側横隔膜舉上。患側肋間腔狹隘。中央陰影患側移動等ノ所見ノ中何レカーツ以上ノ所見ノ認めラレタル場合ノ患側横隔膜ノ高サヲ森口氏ノ正常横隔膜位ニ比較シタルニ〔第6表(1)。(2)参照〕。即チ

大葉性肺炎ニ於テハ

正常ヨリ高位ノ場合	1例(吸氣時)
正常ノ上界ニアル場合	13例(内3例呼氣時、10例吸氣時)
正常ノ下界ニアル場合	4例(吸氣時)

偽大葉性肺炎ニ於テハ

正常ヨリ高位ノ場合	1例(吸氣時)
正常ノ上界ニ在ル場合	9例(内1例呼氣時)
正常ノ下界ニ在ル場合	4例(吸氣時)

デアル。吸氣時ニ於テモ正常ノ上界以上ニアル場合ハ患側ハ非罹患時ノ吸氣時ヨリモ容積ガ小デアルト云ヘル。從ツテ大葉性肺炎デハ18例中11例ニ於テハ(61.1%)僞大葉性肺炎14例中9例ニ於テハ(64.2%)患側ノ容積ガ非罹患時ノ吸氣ノ容積ヨリハ小、從ツテ罹患肺葉ノ容積ハ非罹患時ノ吸氣時ノ容積ヨリ小デアツタ。残りノ大葉性肺炎7例、僞大葉性肺炎5例ノ横隔膜ノ高サハ呼氣時或ハ吸氣時ニ於テ正常ノ下界ニ在ツタノデ、非罹患時ノ呼氣時又ハ吸氣時ノ容積ヨリハ大キクハ無カツタ。

「レ」線學的ニ患側ノ横隔膜舉上、患側肋間腔狹隘、中央陰影患側移動ノ認メラレナカツタ場合ノ患側ノ横隔膜ノ高サハ正常ヨリ明カニ低位ニ在ツタ場合ハ一例モナク、又健側ニ比較シテ患側横隔膜低位、患側肋間腔擴大及ビ中央陰影健側移動等ノ所見ハ一例モ認メラレナカツタノデ、患側即チ罹患肺葉ノ容積ハ正常ヨリ著明ニ大ナリト思ハレタ場合ハ無カツタ。

第6表(1) 僞大葉性肺炎ノ患側横隔膜ノ高サ(○印ハ患側横隔膜舉上、

患側肋間腔狹隘、中央陰影患側移動ノ所見中何レカーツ以上ノ所見有ル場合太線内ハ森口氏ニヨル正常横隔膜位)

右側

肋骨 番號	年齢		
	1	2	3
	0 1 2 3 4	0 1 2 3 4	0 1 2 3 4
8		①	1
8~9	1	1	
9	1 1 2 1	1 ① ①	1
9~10	① ① 1	1	
10	2 2 2 1 ①		
10~11	1 2 1	1 1	

左側

肋骨 番號	年齢	
	1	2
	0 1 2 3 4	0 1 2 3
9~10	① ①	① ①
10	①	1 ①
10~11		1

第6表(2) 大葉性肺炎ノ患側横隔膜ノ高サ(○印ハ患側横隔膜舉上、

患側肋間腔狹隘、中央陰影患側移動ノ中何レカーツ以上ノ所見有ル場合、太線内ハ森口氏ニヨル正常横隔膜位)

右側

肋骨 番號	年齢											
	1	2	3	4	5	6	8	11	12			
	0	1 2 3	0 2	2	0 4	2	0 2	1	2 4			
9	1 ①		1 1	①				1 1				
9~10			1									
10		①		2		①						
10~11		1 1						1				
11					1 ①	1						

左側

肋骨 番號	年齢								
	1	2	4	5	6	7	8	9	
	2	1 3	0	2	1 2	3 3	3		
9									
9~10		① ①		①					
10	①	1 ①		① ① ① ① ① ①					
10~11			①			①			
11									

第五章 總括及考按

小兒急性大葉性肺炎37例、僞大葉性肺炎45例ノ「レ」線「フィルム」ニ就キ患側横隔膜舉上、患側肋間腔狹隘、中央陰影患側移動、竝ビ之ト吸氣相トノ關係及ビ患側ノ横隔膜ノ高サニ就

キ檢索シタ。

患側ノ横隔膜舉上ハ健側ト比較シ健側ヨリ高イ場合ヲ横隔膜舉上トシタ。患側ノ肋間腔狹隘モ健側ト比較シ。副胸骨線上デ健側ヨリ肋間腔ノ狹隘ナル場合ヲ患側肋間腔狹隘ナリトシタ。中央陰影患側移動ハ右側移動ノ場合ハ中央陰影就中心臟ノ殆ンド中央ニ在ル場合ヲ。左側移動ノ場合ハ右側ノ第1弓及ビ第2弓ノ全ク影ヲ没スル場合ヲ。中央陰影患側移動トシタ。

横隔膜ノ高サハ横隔膜穹窿ノ高サヲ後側肋骨番號デ測定シタ。吸氣相ノ決定ハ Allen and Walz 氏ノ方法ニ依ツタ。

患側横隔膜舉上ハ大葉性肺炎デハ 37 例中 10 例ニ於テ (28.5%)。僞大葉性肺炎デハ 45 例中 9 例 (20%)ニ於テ發現シタ。即チ大葉性肺炎ノ方が發現率ハ高カツタ。然シテ發現ノ順序ハ大葉性肺炎デハ左下葉。左上葉。右上葉ノ順デ右側二葉。右上葉。右中葉ニ於テハ 1 例モ發現シナカツタ。僞大葉性肺炎デハ左上葉。左下葉。右側二葉。右上葉ノ順ニ右中葉。右下葉ニ於テハ 1 例モ認メラレナカツタ。之ヲ要スルニ。罹患肺葉ノ容積が大ナル程又罹患部位ノ容積が大ナル程大體ニ於テ發現率ハ高カツタ。

患側ノ肋間腔狹隘モ大葉性肺炎デハ 37 例中 12 例 (32.4%) 僞大葉性肺炎デハ 45 例中 8 例 (17.8%)ニ於テ認メラレ。大葉性肺炎ノ方が發現率ハ高ツタ。然シテ發現ノ順序ハ大葉性肺炎デハ一側全葉。右側二葉。左上葉左下葉。右上葉ノ順ニ。僞大葉性肺炎デハ左下葉。左上葉。右側二葉。右上葉ノ順デ。患側肋間腔狹隘ノ發現率ハ罹患肺葉竝ビニ罹患部位ノ容積ニ大體ニ於テ比例シテキタ。

中央陰影患側移動ハ大葉性肺炎デハ 37 例中 15 例 (40.5%)ニ於テ僞大葉性肺炎デハ 45 例中 8 例 (17.8%)ニ於テ發現シ矢張り大葉性肺炎ノ方が發現率ハ高カツタ。又發現ノ順序ハ大葉性肺炎デハ一側全葉。右側二葉。左上葉。左下葉右中葉ノ順デ。右上葉ニ於テハ 1 例モ發現シナカツタ。僞大葉性肺炎デハ右側二葉。左下葉。左上葉。右中葉ノ順デ右中葉ニ於テハ 1 例モ發現シナカツタ。之ヲ要スルニコノ場合モ罹患肺葉ノ大ナル程又罹患部位ノ大ナル程大體ニ於テ中央陰影患側移動ノ發現率ハ高カツタ。

次ニ患側横隔膜舉上ト吸氣相トノ關係ヲ見タルニ。大葉性肺炎ニ於テハ吸氣相 0ノ時ハ 0% (8 例中 1 例モ無シ)。吸氣相 1ノ時ハ 33.3% (9 例中 3 例)。吸氣相 2ノ時ハ 30.0% (10 例中 3 例)。吸氣相 3ノ時ハ 66.7% (6 例中 4 例) 患側横隔膜舉上ガ發現シ。僞大葉性肺炎デ吸氣相 0ノ時ハ 22.2% (9 例中 2 例)。吸氣相 1ノ時ハ 8.3% (12 例中 1 例) 吸氣相 2ノ時ハ 38.5% (13 例中 5 例) 吸氣相 3ノ時ハ 11.1% (9 例中 1 例) 患側横隔膜舉上ガ認メラレタ。

患側肋間腔狹隘ト吸氣相ノ關係ハ。大葉性肺炎デハ吸氣相 0ノ時ハ 12.5% (8 例中 1 例)。吸氣相 1ノ時ハ 33.3% (9 例中 3 例)。吸氣相 2ノ時ハ 30% (10 例中 3 例)。吸氣相 3ノ時ハ 71.4% (7 例中 5 例)。吸氣相 4ノ時ハ 33.3% (3 例中 1 例) 患側肋間腔狹隘ガ認メラレ。僞大

葉性肺炎デハ吸氣相0ノ時ハ11.1%(9例中1例)吸氣相1ノ時ハ8.3%(12例中1例). 吸氣相2ノ時ハ30.7%(13例中4例)吸氣相3ノ時ハ22.2%(9例中2例)發現シタ。

中央陰影患側移動ハ大葉性肺炎デハ吸氣相0ノ時ハ25.0%(8例中2例). 吸氣相1ノ時ハ55.6%(9例中5例). 吸氣相2ノ時ハ40%(10例中4例). 吸氣相3ノ時ハ50%(6例中3例). 吸氣相4ノ時ハ50%(2例中1例)發現シ. 偽大葉性肺炎デハ吸氣相0ノ時ハ0%(9例中1例モナシ)吸氣相1ノ時ハ0%(12例中1例モナシ). 吸氣相2ノ時ハ38.4%(13例中5例). 吸氣相3ノ時ハ22.2%(9例中2例). 吸氣相4ノ時ハ50%(2例中1例)發現シタ。

之ヲ要スルニ患側横隔膜舉上. 患側肋間腔狹隘. 中央陰影患側移動等ノ所見ノ發現率ハ大體ニ於テ吸氣相ノ増加ト共ニ増大シタ。然シテ常ニ大葉性肺炎ガ偽大葉性肺炎ヨリ發現率ガ高カツタ。從ツテ患側即チ罹患肺葉ノ擴張能ハ健側ニ比シ不良デアリ大葉性肺炎ハ偽大葉性肺炎ヨリ不良デアル様ニ思ハレタ。罹患肺葉ハ肺泡壁. 葉間肋膜. 肋骨肋膜ガ肥厚シテキル爲ニ擴張能ガ不良トナルノデアラウ。偽大葉性肺炎ノ大葉性肺炎ニ比シ擴張能ノ不良ナラザルハ偽大葉性肺炎ハ大葉性肺炎ヨリ氣管枝肺炎ニ病理解剖學的ニ比較的近似シテキル事モノ一因デハナカラウカ。

以上ノ如ク罹患肺葉ノ擴張能ガ健側ニ比シ不良ナルタメニ罹患肺葉或ハ罹患部位ノ大ナル程患側横隔膜舉上. 患側肋間腔狹隘. 中央陰影患側移動等ノ所見ガ高率ニ發現スルノデアラウ。

横隔膜穹窿ノ高サヲ後側ノ肋骨デ測定シタルニ患側横隔膜舉上. 患側肋間腔狹隘. 中央陰影患側移動等ノ所見ノ中何レカーツ以上ノ所見ノ發現シタル場合ノ患側横隔膜ノ高サハ吸氣時ニ於テモ大葉性肺炎デハ61.1%(18例中11例). 偽大葉性肺炎デハ64.2%(14例中9例)ハ正常ノ上界以上ニ在ツタ。即チコノ場合ハ患側即チ罹患肺葉ノ容積ハ非罹患時ノ吸氣時ノ容積ヨリ小ナリト言ヘル。從ツテコレ等ノ場合ハ罹患肺葉ノ擴張能ハ健側ヨリ不良ナルハ勿論非罹患時ヨリ擴張能ハ不良デアルト云ヘル。然シ殘リノ大葉性肺炎7例. 偽大葉性肺炎5例ノ横隔膜ノ高サハ呼氣時或ハ吸氣時ニ於テ正常ノ中界或ハ下界ニ在ツタノデ非罹患時ノ呼氣時又ハ吸氣時ノ容積ヨリ大ナラズト云ヘルノミデ罹患肺葉ノ擴張能ハ健側ヨリ不良ナルハ勿論デアルガ非罹患時トノ比較ハ困難デアツタ。

患側横隔膜舉上. 患側肋間腔狹隘. 中央陰影患側移動等ノ認メラレナカツタ場合ニ於テモ横隔膜ノ高サハ正常ヨリ明カニ低位ニアツタ場合ハ1例モナク又反對ニ健側ニ比シ患側横隔膜低位. 患側肋間腔擴大. 中央陰影健側移動等ノ所見ハ認メラレナカツタノデ患側即チ罹患肺葉ノ容積ガ著明ニ大ナリト思ハレタ場合ハ無カツタ。

第六章 結 辭

小兒急性大葉性肺炎. 偽大葉性肺炎ニ於テ健側ニ比シ患側横隔膜舉上. 患側肋間腔狹隘及ビ

中央陰影患側移動等ノ所見ハ罹患肺葉竝ビニ罹患部位ノ大ナル程高率ニ出現シ。大葉性肺炎ハ僞大葉性肺炎ヨリ高率ニ出現シタ。之ト吸氣相トノ關係ハ吸氣相ノ増加ト共ニ發現率ハ増加シタ。特ニ大葉性肺炎ニ於テ此ノ傾向ハ著明デアツタ。從ツテ罹患肺葉ノ擴張能ハ健側ニ比シ不良デアツテ。病型別ニハ大葉性肺炎ガ僞大葉性肺炎ヨリ擴張能ハ不良デアツタ。之ハ病理解剖學的ニ僞大葉性肺炎ハ大葉性肺炎ヨリ氣管枝肺炎ニ近似シテキルタメデアラウ。

大葉性肺炎。僞大葉性肺炎共ニ患側横隔膜舉上。患側肋間腔狹隘。中央陰影患側移動等ノ所見ノ中何レカーツノ所見ノ認メラレタ場合ハ。大多數ニ於テ横隔膜ノ高サハ吸氣時ニ於テモ正常以上或ハ正常ノ上界ニ在ツタノデ。罹患肺葉ノ容積ハ非罹患時ノ吸氣時ノ容積ガ小デアル様ニ思ハレタ。然シ横隔膜位ガ明カニ正常ヨリ低位ニアル場合ハ1例モ認メラレナカツタノデ。非罹患時ヨリ明カニ容積ノ増大シテキル場合ハ無カツタ。

患側横隔膜舉上。患側肋間腔狹隘。中央陰影患側移動等ノ所見ノ認メラレナカツタ場合ニ於テモ。患側横隔膜ハ正常ヨリ明カニ低位ニアリ或ハ反對ニ健側ニ比シ患側横隔膜低位。患側肋間腔擴大。中央陰影健側移動等ノ所見ハ1例モ無カツタノデ。コノ場合モ罹患肺葉ハ非罹患時ヨリ容積ハ大キクハナイ様ニ思ハレタ。即チ罹患肺葉ノ容積ハ非罹患時ヨリ小ナルカ同大デナル場合ハ認メラレナカツタ。

本稿ノ大要ハ昭和17年4月第207回日本小兒科學會東京地方會ニ發表シタモノデアル。稿ヲ終ルニ臨ミ終始御懇篤ナル御指導ト御校閲ノ勞ヲ賜リタル恩師詫摩教授ニ深謝スル次第デアル。

文 獻

- 1) Engel u. Schall, Handbuch der Röntgendiagnostik und Therapie im Kindesalter. 2) Griffith, Zentralblatt. f. gesamten Kinderheilkunde Bd. 23, S. 513. 3) Wallgren, Acta paediatrica B-I. 31. S. 81. 4) Duken, Monatschr. f. Kinderheilkunde Bd. 41. S. 175. 5) Götche, Archiv f. Kinderheilkunde Bd. 88. S. 279. 6) Gleich, Morris, Zentralblatt f. gesamten Kinderheilkunde Bd. 25. S. 649. 7) Blanton, American Journal of Diseases of children Bd. 47. S. 1070. 8) Fanconi, Zentralblatt f. gesamten Kinderheilkunde Bd. 29. S. 687. 9) Tallermann, Zentralblatt f. gesamten Kinderheilkunde Bd. 23. S. 770. 10) Maitland-Jones, Zentralblatt f. gesamten Kinderheilkunde Bd. 22. S. 343. 11) ching Wu, Fortschritt für Röntgendiagnostik Bd. 47. S. 597. 12) Wisskott, Fortschritt für Röntgendiagnostik Bd. 47. S. 597. 13) 横山, 乳兒學雜誌 第20卷. 105頁. 14) 武田, 小兒科臨牀ノ實際. 第三版. 31頁.